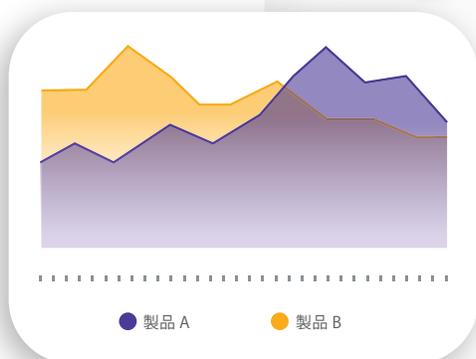


デジタル化された財務サプライチェーンを最大限に活かす

購買担当者とサプライヤーにとってのメリット



急速に変化する現在のグローバル市場では、財務サプライチェーンのデジタル化が近年注目されています。これは市場に変革をもたらすソリューションであり、購買担当者とサプライヤーの両方に多くのメリットをもたらします。

Infor Nexus™ のようなプラットフォームを活用し、財務サプライチェーン管理ソリューションを導入することで、組織はサプライチェーンネットワーク全体で業務を効率化し、コラボレーションを強化し、リスクを軽減することができます。

概要



購買担当者のメリット

- ・ コラボレーションと透明性の強化
- ・ 効率的な請求書処理
- ・ 会計管理の自動化
- ・ コスト削減とインセンティブ
- ・ サプライヤーパフォーマンスの向上
- ・ 調達と物流の最適化
- ・ 標準化による国境手続きのコンプライアンス徹底



サプライヤーのメリット

- ・ やり取りとコンプライアンスの合理化
- ・ Mデータ精度の強化
- ・ 請求プロセスの効率化
- ・ 予防的な差異管理
- ・ コスト効率の高い取引
- ・ 支払いにおける可視性の強化
- ・ 多様な資金調達手段へのアクセス

両方の視点から見たデジタル化の具体的なメリット:

購買担当者にとって、財務サプライチェーンのデジタル化によるメリットは多岐にわたり、大きな変革をもたらすものです。



コラボレーションと透明性の強化

サプライチェーン全体にわたる財務データのデジタル化と統合により、購買担当者とサプライヤー間の密接なコラボレーションと透明性が高まります。予防的な差異検出メカニズムが差異をタイムリーに特定して対処することで、問題の迅速な解決が可能となります。この積極的なアプローチは信頼を構築し、購買担当者とサプライヤーの関係を強化するだけでなく、データの正確性と透明性も向上させます。さらに、財務データの電子統合によって手動プロセスが不要になり、エラーが減少し、サプライチェーン全体での支払いの可視性が高まります。このシームレスな統合で、ステークホルダーはリアルタイムのデータにアクセスできるようになり、意思決定能力と運用効率の改善につながります。



効率的な請求書処理

効率的な請求書処理を実現するには、請求書フォーマットの標準化をはじめ、さまざまな課題があります。デジタル化を導入することで、すべてのインバウンド請求書が事前定義されたテンプレートに確実に準拠し、不一致がなく、購買担当者の要件を遵守していることが保証されます。フォーマットが標準化されると、請求書処理が効率化され、曖昧さが解消、承認スピードが向上します。さらに、革新的な N-way マッチング機能では、発注書、事前出荷通知、

運送業者の領収書などの複数の文書を取り込み、承認プロセスを高速化します。こうしたプロセスの自動化によってサイクルタイムが短縮し、サプライチェーン全体の効率と応答力の向上につながります。



会計管理の自動化

タッチレス承認メカニズムと自動支払いスケジュール機能により、購買担当者は事前定義されたコンプライアンス基準を活用しながら、会計管理プロセスを大幅に合理化できます。人の手を介さない請求書の自動承認・処理と、自動資金振込は、承認プロセスを高速化し、人的監視の必要性を減少させ、業務効率の向上とコスト削減を可能にします。また、サプライヤーは可視化された支払い状況を確認できるため、電話での問い合わせが不要になります。自動支払いスケジュール機能では、支払い条件、支払い日、地域要件などのさまざまな要素を考慮して最適な支払い日を決定できます。こうしたスケジュールタスクを自動化することで、購買担当者はキャッシュフロー管理を最適化し、財務計画を強化し、流動性を向上させることができます。



コスト削減とインセンティブ

信用状 (LC) の廃止、請求書の割引買取プログラムの導入、電信手数料の節約は、購買担当者とサプライヤーの両方にとって大幅なコスト削減につながります。LC が不要になることで、購買担当者は低コストの代替の支払い方法を提供できるため、シンプルな財務取引が可能になり、管理業務の負担が軽減されます。また、請求書の統合により、ベンダーへの支払い時に発生する銀行電信手数料を節約でき、さらなる効率の向上と取引コストの改善が実現します。そのうえ、Supply Chain Finance のプログラムでは、タイミング、ベンダー、地域、製品などの柔軟な基準に基づいてサプライヤーにインセンティブを提供します。このインセンティブによって、両方のコスト削減が促され、サプライチェーン内の競争力と収益性が向上します。



サプライヤーパフォーマンスの向上

可視性とコラボレーションを強化させることで、サプライヤーのパフォーマンスが向上します。タイムリーなコラボレーションと情報更新により、サプライヤーは購買担当者の要件の遵守を徹底できるため、関係強化とサプライチェーンのレジリエンス (回復力) 向上につながります。購買担当者は、デジタルプラットフォームの機能を活用してサプライヤーのパフォーマンスをリアルタイムで監視・評価でき、問題の予防的管理や改善機会の把握が可能になります。こうしたパフォーマンスの向上は、個々のサプライヤーに利益をもたらすだけでなく、サプライチェーンのエコシステム全体の効率化と成果創出にも貢献します。



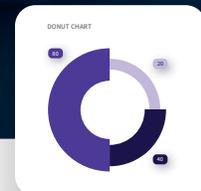
調達と物流の最適化

発注 (PO) コラボレーションを効率化し、包装明細書と貨物受領書の可視性を強化することで、調達プロセスと物流プロセスが最適化されます。PO コラボレーション用の一元化されたプラットフォームを利用すると、すべてのベンダーが発注書と変更内容を確実にタイムリーに受け取ることができます。これによって購買担当者のエラーが減少し、スムーズなやり取りが可能になります。この合理化されたアプローチは、調達効率を向上させ、遅延や中断リスクを軽減します。さらに、包装明細書と貨物受領書の可視性が強化されると、物流チームは遅延や中断の予防的管理が可能になり、サプライチェーン業務への影響を最小限に抑えることができます。潜在的な問題を先回りして把握することで、購買担当者は物流プロセスを最適化し、業務上のアジリティ (俊敏性) を維持できます。



標準化による国境手続きのコンプライアンス徹底

コマーシャルインボイスの標準化と通関業者との電子共有により、国境手続きのコストと遅延が軽減され、コンプライアンスの強化と業務コストの削減につながります。購買担当者は、コマーシャルインボイスを標準化してデータ要件への準拠を徹底することで、正確性と一貫性を確保し、通関時の遅延やエラーのリスクを最小限に抑えることができます。通関業者とのインボイスの電子共有は、シームレスなやり取りとデータ交換を可能にし、処理の迅速化と管理業務の負担軽減を促進します。この合理化されたアプローチは、規制要件の遵守を強化するだけでなく、通関関連のコストを削減し、サプライチェーン内の全体的なコスト削減に貢献します。



サプライチェーン業務のデジタル化は、サプライヤーにとって次のようなメリットがあります。

やり取りとコンプライアンスの合理化

デジタル化により、サプライヤーは購買担当者の文書要件を明確に把握して遵守できるようになります。デジタルプラットフォームを活用すると、サプライヤーは仕様や規格を詳しく確認できるため、購買担当者の期待に沿ったアウトプットが可能になります。このように明確性が向上することで、誤解や曖昧さが解消され、やり取りが効率化されて購買担当者とサプライヤーのパートナーシップが強化されます。さらに、デジタル化によってコンプライアンスプロセスが合理化されると、エラーや見落としのリスクが軽減され、取引全体の効率性と信頼性が向上します。



データ精度の強化

プロセスをデジタル化することで、サプライチェーン全体におけるデータ精度が大幅に向上します。さまざまな文書間でデータを再利用できるため、購買担当者は正確な文書作成が可能になり、エラーを最小限に抑えながら、サプライヤーのフォローアップに必要な時間と労力を軽減できます。そのうえ、支払い遅延が減少し、サプライヤーは支払いの受け取り時期を正確に把握できることから、良好な関係が深まります。また、購買担当者は検証ルールを活用し、特定の要件に合わせて文書を調整できるため、効率が大幅に向上するだけでなく、コンプライアンスを徹底することも可能です。その結果、サプライヤーの顧客満足度の向上につながります。



請求プロセスの効率化

自動請求書生成は、財務サプライチェーンにおける請求処理プロセスに革命をもたらします。包装明細書と連携して請求書を迅速かつ正確に生成し、人的エラーのリスクを最小限に抑えることができます。この自動化によって請求サイクルが短縮するだけでなく、財務取引の精度も保証されます。手作業を削減してプロセスを合理化することで、サプライヤーはキャッシュフローを加速させ、リソースの割り当てを最適化できるようになり、流動性と財務の安定性が向上します。



予防的な差異管理

サプライヤーは高度な機能を活用することで、請求書の差異を事前に特定して修正できます。事前のコンプライアンスチェックを行って提出前にエラーや不一致のリスクを軽減させ、購買担当者の要件の遵守を徹底することが可能です。この先回りのアプローチは、サプライチェーンネットワーク内での確実性と信頼性を高め、購買担当者とサプライヤー間の信頼関係を強化し、長期的な関係構築を促進します。その結果、支払い遅延や紛争の発生が最小限に抑えられ、よりスムーズで効率的な取引プロセスの実現につながります。



コスト効率の高い取引

財務取引にデジタルプラットフォームを導入すると、信用状などの従来の方法に関連するコストを大幅に削減できます。デジタル化により、紙の文書や手動によるわずらわしい処理業務が不要になるため、取引ワークフローが効率化され、管理上のオーバーヘッドが抑えられます。このようにコスト効率が高いことにより、デジタル取引は魅力的かつ現実的な代替手段となっています。財務サプライチェーンにおける効率を向上させ、手頃な価格の取引を促進します。



支払いにおける可視性の強化

デジタルプラットフォームでは、請求書の提出から承認、決済に至るまで、支払いライフサイクル全体が可視化され、サプライヤーは状況を詳しく確認できます。また、リアルタイムの更新と通知によって支払い状況に関する正確な情報を把握できるため、何度も問い合わせたり、フォローアップを受けたりする必要がなくなります。この透明性は、サプライヤーのキャッシュフロー管理と、より効果的かつ効率的なリソース割り当てを可能にします。デジタルプラットフォームは、支払い処理の不確実性と遅延を最小限に抑えることで、業務効率と財務計画能力を向上させ、最終的にはビジネスパフォーマンスの向上に貢献します。



多様な資金調達手段へのアクセス

デジタル化により、サプライヤーは従来の融資手段の枠を超えた多様な資金調達オプションを利用できるようになります。デジタルプラットフォームを活用して金融プロバイダーのネットワークにつなげることで、事業規模に関わらず、より多くのサプライヤーが資金を調達できるようになります。また、出荷前融資や出荷後融資など、自社固有のニーズに合う資金調達プログラムも検討できます。融資オプションの選択肢が増え、競争力のある金利での資金調達が可能になるため、サプライヤーの財務における柔軟性とレジリエンスが強化され、キャッシュフロー管理と投資戦略を最適化できます。このように資金調達の選択肢が増えると、サプライチェーンエコシステム内でのイノベーションと成長が促され、持続可能なビジネスの発展と競争力の強化につながります。



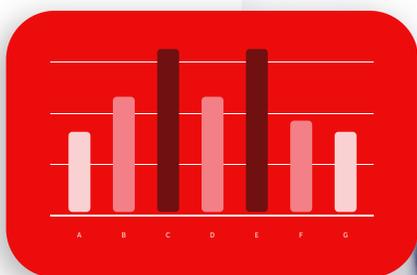
サプライヤーは、あらゆる組織のサプライチェーンにおいて不可欠な存在です。サプライヤーとの関係を構築して維持することは、時に困難を伴います。そこでデジタル化された財務サプライチェーンを利用すると、購買担当者とサプライヤー間のコラボレーションをシンプルかつ効率的なものにできます。





おわりに

財務サプライチェーンのデジタル化は、購買担当者とサプライヤーの両方に魅力的なメリットをもたらします。データ精度の向上、コラボレーションの強化、コスト削減など、その利点は明らかです。業務を最適化して関係を強化し、競争優位性を獲得したいとお考えの企業は、Infor Nexus™ などのプラットフォームを利用したデジタル化の導入をぜひご検討ください。デジタル化された財務サプライチェーンの力を活用することで、企業は昨今の市場の複雑さに効率よく堂々と対処できるようになります。



Infor Nexus について

Infor Nexus™ は業界をリードするエンドツーエンドのグローバルサプライチェーンプラットフォームで、20 年以上にわたって卓越した可視性を提供し、企業を支えています。Infor Nexus™ は 85,000 を超えるブランド、小売業者、メーカー、サプライヤー、物流プロバイダー、銀行のネットワークを単一インスタンスのネットワークプラットフォームで結びつけ、調達から納品、支払いまでのグローバルサプライチェーンプロセスをシームレスに調整します。企業は業務を合理化して非効率や無駄を削減しながら、データに基づくインサイトを美得てキャッシュフローを最適化し、アジリティ、レジリエンス、持続可能性を高めることができます。

infor.com

[詳しくはこちら](#)

Copyright© 2024 Infor. All rights reserved. ここに示す文字標章および図形標章は、インフォアおよび/またはその関連会社ならびに子会社の商標および/または登録商標、あるいはその両方です。本書に記載されるその他すべての商標は各所有者に帰属します。

INFDT3026995-ja-JP-0524-1

Infor **Nexus**